

サービ斯拉ーニング活動報告

社会福祉学部社会福祉学科 2年 長谷川 巡

活動先：NPO 法人 だいこんの花

ゼミ：野尻 紀恵 先生

私が活動させていただいただいこんの花は、病院・各施設など地域全体で支え合う、地域包括ケアを目指している。職員の方々は、高齢者が住み慣れた町・家で過ごせるようにサポートしていきたいとおっしゃっていた。

今回のサービ斯拉ーニングで、私は初めて福祉の現場にたずさわったのではないかと思う。福祉の現場の雰囲気を感じることができたことは私にとってとてもいい経験になった。わからないことが多く、不安と緊張でうまく自分を出すことができるか心配だった。しかし、だいこんの花のスタッフの方がやさしくサポートしてくださったこともあり、利用者の方から昔の話などを聞かせていただき、とても学びになった。介護やお世話をする立場ではあるが、その立場を忘れる時間というのも大切ではないかと感じた瞬間が何度もあった。

サービ斯拉ーニング 1 日目の活動の訪問介護と 2 日目の活動のデイサービスでは同じ介護でも気を付けなければならないポイントや対応の違いがあり、利用者さんへのかかわり方も違い、とても学びになった。

1 日目の訪問介護では、その家にあったその家の雰囲気にそくした対応があり、1 日の流れがだいたい決まっていて進行していくデイサービスとは違うものであった。毎回場所や時間、やることが違うので、効率よく動くことが大事である。今回の活動では主に料理・掃除・買い出しをしたが、利用者の方によって体調やその家の味付けというのがあり毎回料理にくふうをすることが大事で、最低でも 3 品以上つくるというのは大変だし、普段料理をしない私には難しい問題だった。掃除の場合は、利用者の方に動かしてもいいかということの確認が求められる。また、つまづく可能性があるとか踏んでしまったらけがをってしまう物は落ちてないかなど、注意深く見る必要がある。利用者の方々にお金をいただき、仕事としてやっているのに、中途半端なことではできないと感じたし、利用者の方が求めていることはなるべくするべきではないだろうか。

2 日目のデイサービスでは転倒などの事故を防ぐ転倒防止は基本だが、どれほど用心しても足りないほど大切なことだと感じた。利用者の方によって、前から支えてほしい方であったり隣から支えてほしい方であったりとその方が安心できる支え方など対応が違う。また、各利用者の方によって人間関係やその時の体調・機嫌は違う。そのため、いかに自分がその場の雰囲気を感じ取り、実行出来るかが大切である。昼食の際は、自分が食事をしている間もしっかりと利用者さんが食べているか、食べてはいけない物があるのではないかと配慮しながら食べることも大切である。固いものや、肉など噛み切りにくいメニュー

一はハサミで細かく切って食べやすく、喉に詰まってしまうたりしたら背中をさすったりなど、スタッフの素早い対応が大切である。

3日目はだいこんの花の夏のメインイベントであり私たちに任せて頂いた夏祭りのリハーサルだった。この夏祭りの企画・運営を学生に任せると、サービスラーニングが始まる前に言われていたし、利用者の方が1年に一度という事でとても楽しみにしていると聞いていた。しかし、私達学生側の動きが遅かったのと、担当者の方から連絡に対し返答が遅く、多大な迷惑をかけてしまった。夏祭りに参加していただくゲストの方への連絡も本来なら私達の役目だったが、時間はあるし、という安易な考えで先延ばしにしてしまい、結局は担当者の方に丸投げする形になってしまった。リハーサルの時も私達が準備不足で夜遅くまでリハーサルの時間を取らせてしまった。

4日目・5日目の夏祭り本番は、スタッフの方の協力もあり、何とか無事に成功することができ安心した。

最初の打ち合わせの時点で、企画は早めに考えて準備するように、と何度も言われていたので、本来ならドキドキすることなく自信を持ち楽しんでいただくことができたのかもしれない、だいこんの花さんが大事なイベントの企画を託してくれたのに期待に、全く応えられなかったことは、とても後悔している。今後同じような機会があると思うが、今回の経験や失敗を学び、次にいかしたいと考えている。

今回の私の反省点は、事前に言われていたことを後回しにしてしまい、逆算して考えることができなかったということだ。何とかなるという考えを持って活動に参加し、だいこんの花のスタッフの方々に負担をかけてしまった。

一方、良かった点は何かと考えると、積極的に利用者様と関わることができたということだ。積極的に関わることで、利用者様からいろいろな話を聞いた。それによって、私は利用者様から元気をいただいた。そして、私が積極的に利用者様に関わることで、少しでも利用者様が元気になってくださったかもしれない。

自分にきっと出来ることはある。

福祉は自分には向いてないと最初は考えていたが、今、考え方も変わった。